

# スキーO マスターズ世界選手権

「寒さを吹っ飛ばして滑りまくった1週間」

2004年日本チーム  
代表 武石雄市

厳寒の中で熱い戦い。ワクシングテストと言っては外に出る。レースの反省と言ってはコースを滑る。レストの日は自由だからと言っては長いトラックに挑戦する。フィンランド（ボカッティ）の森を満喫した日本チームの5人。スキーOは楽しいっ！！

## 参加日本選手は5名！

スキーOマスターズ選手権（35歳以上）及びジュニア選手権（20歳未満）は毎年開催される。それに今大会はヨーロッパユース選手権（17歳未満）も同時開催。ジュニアの選手を同行したくて、早くから機会を捉えては希望者を募ったが残念ながら現れなかった。

今年の参加選手はベテランのみ下記の5名になった。

大里真理子	W 4 0	連続 2 回目
山田 一善	M 4 0	連続 2 回目
鈴木 三郎	M 6 0	初参加
高原 進	M 6 0	連続 4 回目
武石 雄市	M 6 5	連続 4 回目

出発前のコメントを前号に記載したが、はたして結果は？反省は？

## 2年連続の飛行機トラブル

選手の会場入りは1月19日になってしたが、2~3日早く行ってトレーニングすることになり、当初はロバニエミも候補地であったが、ボカッティは2000年ワールドカップの滞在で知り尽くしており、イベントオーガナイザーのOKを取り私的都合で遅れる紅一点の大里さんを除き、男性4人は17日に乗り込むことになった。

日程の都合でスカンジナビア航空にしたためヘルシンキにはコペンハーゲンで乗り継ぎすることになる。コペン空港には数回来ているが何かとトラブルが発生するので注意をしよう。

今度もなんか変だ。客室乗務員が全員のシートベルトを確認しているが、私の席はMD81（航空機）の主翼近くの窓際で、窓の下を覗くとタグ（牽引車）に車輪を載せて主輪の近くに止まっているのが見える。整備員も工具を持って数名居るのが見える。間もなく機長のアナウンスがあって、日本人の客室乗務員が「タイヤの部品を交換しているので30分程度離陸が遅れます」と説明してくれた。だが、私も元航空機の整備員だ。客を降ろさないでタイヤの部品交換はおかしい、主輪ASSYを交換じゃあるまいしどんなに急いでも1時間では完了するまい、と、思った。結局、定刻より1時間半ほど遅れた。

昨年のタリン（エストニア）へは、コペン空港が濃霧で、搭乗の航空機の着陸が大幅に遅れて乗り継ぎ便に間に合わないアクシデントがあった。長い時間空港上空を旋回していた機長が無事ランウェイに接地させた時は乗客が思わず拍手で機長に感謝したことを思い出しました。あの時は航空会社の手配でコペンハーゲン市内のホテルに泊まり、思いがけず市内見物できたが、今回はヘルシンキ到着が真夜中になり、翌朝のカヤ二便も早いので睡眠時間が少なくなりホテル代が損する気分になった。そう言えば、昨年は全員のスキーがコペンに積み残されたトラブルもあったね。

命も、荷物も、他人任せの航空機の旅はそれなりのトラブル対策を持つことが必然だ。

## プレトレーニング

17日朝のカヤ二空港到着は7:30、一善さんが心配していたバスは既にターミナル前でわれわれを待ててくれた。40分ほどでホテルに到着したわれわれは、スキーに飢えているかのように一般市民が楽しんでいるコースに飛び出していった。

凍った湖の上にピステ（圧雪車）コースがついている。1キロほど滑って湖岸のロッジに近づいて行ったら老夫婦が珍しい東洋人になにやら声をかけてきた。私は日本語で「おはようございます」と挨拶して引き返した。

午後もち立ち入り禁止エリアを避けて外周を滑ったが、5キロ標識に誘われるようにコースを入ったら、後でトレーニングマップを見たら少し禁止エリアに踏み込んだようだった。（危ない、危ない）途中でジュニア選手らしき者がマップホルダーを装着してトレーニングしていたが、あれはどこの国のどんな選手だったんだろう？

18日は他チームより早くモデルイベントのマップを手に入れてたっぷり滑った。道路や鉄道に掛かっている橋の下や上を通過して東西約3km、少しの急斜面にはもうショートカット道がついている。距離も充分だ。湖のトラックは薄っすらと新雪が積もっているが、太陽も短く顔を出し - 11度でも気分爽快。



熟年  
日本チーム

20日は終日気温が下がって-18度。朝、大里さんが合流したが、その頃、われわれはトレーニングエリアの隅々まで回りきっていた。

オープニングセレモニーは、国名ブラカードを持ったフィンランド娘の後に日の丸を持って短い行進をした。

グラウンドではいつものようにイタリアとラトビアの間に整列した。子供たち数十人が松明を持って選手の周囲をスキーでぐるぐる滑ってくれた。セレモニーが終わったら数人の子供たちがサイン帳を持って集まってきた。東洋人も珍しいだろうが、漢字も珍しい筈だ。私は、大きく「武石雄市 JAPAN」と書いた。

### ヘルプ・ミーと消防自動車

21日、WMOCはロング第1レースである。早い時刻の大里さんや鈴木さんのスタートを見届け、私もレースの最後まで程よい緊張感で無事ゴールできた。

ゴール後、ゆっくりスキーを進めてエミットカードをユニットに挿入してペナチェックをする。そこを通過すると係のおばさんが最初に渡してくれるのがティッシュペーパーだ。何のことが分からず戸惑っていると後ろの選手がティッシュを受け取って直ぐ鼻をかんでいる。やっと分かった、レース中に流した鼻をかめということらしい。なんとと言う気遣いか！私は本当に感心した。

ルールブックやガイドラインを読んで、これまで参加した経験から甘くて暖かい飲み物の提供は厳寒の戸外で行われるスポーツでは当然のことと納得していたが、又一つ勉強になりました。

気温マイナス17度、レース中身体を動かしているとはいえゴールしたとたん、顔も手も体の全面は凍傷寸前である。幸いわれわれの宿舎はゴールから歩いて1分も掛からない。仲間のゴールも見届けたいが、凍てついた身体を温めるのが優先だ。

部屋の前の手すりに凍えた手でスキーを立て掛けて部屋に入り、暖かい温水シャワーを浴びようとレーシングスーツを脱ぎパンツ一枚になった時、ドアの外でガタガタガターンと音がしてスキーの倒れる音がした。手すりに立て掛けた私のスキーが滑り倒れたのだ。部屋の前をとある人の迷惑になってはまずい、と、ドアの外に飛び出したとたん、ドアがカチャンとロックした。慌ててノブに手をかけて廻したが既に遅し、無情にもパンツ一枚の私を残してびくともしないのだ。廊下にも人は居ないし恥をしのいで「ヘルプ・ミー」と人呼んで



リレーのトラック図

誰の応答もない、しばらくしてゴールした同じ棟のおばさんが入ってきたので「ドア - ロック！ヘルプ！ヘルプ！」と訴えても笑いながら通り過ぎてゆく、どうやら言葉が通じないらしい。

震える身体を更に奮い立たせてレセプションまで裸で駆け込もうかと思っていたとき、カチャカチャとマスターキーを腰にぶら下げルームメードが2階から下りて来た。一見して私の事情を察してニコニコしながらドアを開けてくれた。「サンキュー」。私は何事もなかったかのように暖かいシャワーを長い時間、身体の隅々までゆっくりかけて温めた。

それから2日後の23日、ロングの第2レースがスタートしているころ、私も自分のスタート時刻に合わせて装具を準備していると、けたたましく火災報知機が鳴り響き、間もなく町の消防車が化学防護服を着用した消防士を乗せて私達の宿舎棟に止まった。火の気は全くないが警報機はまだ鳴り止まない。合鍵で次々と無人の部屋を開けて点検して廻り、隣の部屋まで来た時ワックスの臭いと共にテーブルの上にあるアイロンが見つかった。熱か煙閉知機が働いて警報機が鳴ったものと見られる。

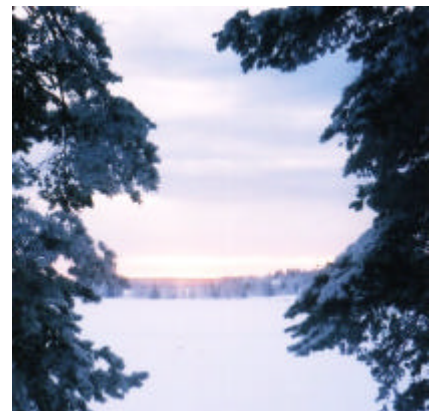
日本でもワックスルームが完備されていない宿舎で見られる光景だが、止めてもらいたい。不特定多数の人に迷惑をかけるし、

イベント役員が行った場合は大会存亡が掛かります。宿泊室でのワックスは絶対に止めましょう。

ついでに申述べるが、最近流行のナノワックスのブラッシングも場所をわきまえないと怪我を誘います。バスルームなんかでブラッシングで落ちた粉にスリッパで踏もうものなら無意識のうちにスリッパ踏みます。まだ怪我は報告されてませんが許可された場所で行うことにしたいものです。

勝つことに腐心する事も当然必要だが、常識をわきまえてこそ真のスポーツマンシップというものです。

(武石雄市)



湖越しに水平移動する太陽

## 山田一善 (M40 多摩 OL)

ビリから脱出という目標はイギリス人のお陰で達成することが出来ました。

### ロング1日目

気温がマイナス17度と思っても見ない寒さにびびりました。コースは単純でクロカンコースにところどころネットワークを付けた程度でした。モバイル道は滑ったのに、ピステ道は全然滑りませんでした。登りは大里さんの方が速かったのではないかと思います。途中で三度も休んでしまいました。しかも、勾配の強いところは開脚で上がっていき始末。雪面に張り付く感じでした。下りはそれでも滑ったので良かったが、タイムは良くないね。ろくにミスもしなかったのに。

### ロング2日目

気温はマイナス12度と暖かい。スタートするまではとても寒かったが、レース中はポカポカでした。スキーは適当に滑り、登りも片足スケータリングで楽々登れました。ピステ道を中心にネットを構成しているのだが奥の方は一本のピステ道に適当に細かいネットを付けた程度と評価していました。処によっては細かいネットもあったようだが、私は特に複雑だとは感じませんでした。何故か一箇所、右に行くところを左に行ってしまう、5分ほど遠回りしてしまいました。3分のところを8分もかけてしまった。それ以外は後でチェックしても問題はなかった。少なくとも地図から目を離すと現在位置がわからなくなることはなかったです。あまり止まることなく、滑りながら地図を十分に読んでいました。

マップトレーニングの成果かな？合宿でもあまりまじめにはやっていなかったが、これからは真剣にやる。来年の世界選手権に行く人はまだ間に合いますね。信じよう。

ピステ道などや単純ところは、オープンな右に曲るとか、次のきつい曲がりや左などと覚えていましたが、ネットの細かいところは、右・左と覚えて対応しました。

スピードが出ていると見落としや曲がれなかつたりするので、こんなものでよいのではと思っています。

### リレー

1走は私、2走はペーターという遅いイギリス人、3走は大里さんというメンバーでなんとH40に出場しました。D20と同じコースで思ったよりも長めでした。プログラムでは3.5kmと書いてあったのに。

マススタートで1番までの途中で口

スしてしまいました。滑りながらプランニングしていましたが、分岐でこっちの方が近いかと思い突然プラン変更、余計なことをしてしまいました。皆、あんなに高速で滑っていても地図はしっかり読んでいるんですね。おかげで皆から置いていかれました。

その後は一人でそれなりの速さで気楽に滑っていました。6番の手前の斜面をゆっくりと登っていると後ろから3人が突然現れビックリしました。どこかで三人揃ってミスしていたんですね。

その後の私は1分くらいのミスで2走のペーターにタッチ、ペーターから大里さんにタッチを見届け、大里さんは1時間は掛かるだろうと、その間にゆっくり昼食を食べて、そろそろかなとカメラを準備していたら、なんと、大里さんがペーターよりも速く、1時間は掛かるだろうと思ってたが46分でゴールしたという。うれしい誤算で大里さんの頑張りを目を見張りました。

今回、全般を通じてネットワークに対応できたのは意外でした。これからの目標としては、何とかフィンランド人の塊の後ろに付いて行きたい。レースに対する対応もそれなりに出来たし、進歩は着実に実感しています。

## 鈴木三郎 (M60 二本松 OLC)

フィンランドの中央部にあるリゾート地ボカッティで行われたスキーOマスタースターズ世界選手権大会に参加してきました。

スキーOの経験が少ない私にとっては、参加申込時からの不安が一杯の中成田を出発しました。大会会場となったボカッティはフィンランドでも屈指のウィンタースポーツのリゾート地で宿泊施設を備えたアルペンスキー場・ジャンプ台大小3基・バイアスロン競技場とクロカンスキーの一周30kmに及ぶトレーニングコースの中に数多くのコースが作られた、恵まれた環境のなかの施設です。

スキーO大会のテレインはクロカンスキートレーニングコースの中にモバイルで数多くのネットワークが作られた素晴らしいテレインでした。気温は滞在中マイナス5～マイナス18と温度差がありました。

大会前日はメモリアルセレモニーが松明の明かりの中16カ国からジュニアの選手も含めて450人の選手がプラカードと国旗を先頭に入場行進を行い明日からの大会を盛り上げました。

大会初日は12kmのロングディスタンス、不安の中のスタート、私にとってはきついアップダウンの連続と複雑な

ネットワークに不安が的中し迷走の連続でしたが、山頂付近からの眺望は素晴らしく景色を楽しみながら何とかゴールできました。

2レース目とリレーはテレインを別の場所に替えてのレースでアップダウンはそれほどきつくはなかったがミスの連続による迷走でした。でも、リレーの第3走者で無事ゴールできて責任を果たせた時はとてもうれしかったです。

この大会に参加して、外国選手があつてのきついアップダウンを何の苦もせず速いスピードで走り去っていく後姿を見ると、私のスキーO技術と体力のなさを痛感しました。

スキーO経験の少ない私でしたがこの大会に参加してスキーOを十分に楽しむことが出来ました。最後にノルディックスキー発祥の地で感じたことはクロスカントリースキーの原点はクラシカルスキーが基本であることを痛感しました。

初めての北欧の旅で、機内からでしたがオーロラも見れてラッキーでした。

## 大里真理子 (W40 京葉 OLC)

ホテルの部屋で、凍った湖の向こうから水平に移動してくる遅い日の出の眺めは素敵だったわ。独り占めするののもったいなくて皆に電話して眺めてもらいました。

とても寒かったけど、素晴らしいスキー環境に一瞬、このまま東京に帰りたくないと言ってしまう口に出してしまいました。

走力もついてきたし、シーズンオフに筋トレして来年のスイス大会を目指します。レーシングスーツも買おうかしら？



隣の女性は顔に寒さ対策

## 高原進 (M60 日本スキーO研)

今回は自分でもビックリするほど地図が読めました。順位は上がってきているし、かあちゃんが参加費を自分で稼いだら何回でも参加しなさい。と言ったか言わなかったか定かでないが、こんな素晴らしい老後の楽しみを捨てるわけには行きません。